第 2 次総合計画策定に係る市民会議

「ＮＥＸＴまきのはら」

最　終　報　告

（平成 26 年5月９日現在）

牧之原市

目　　次

ＮＥＸＴまきのはらの概要　　ページ数

概要 ―――――――― 2

メンバー ―――――――― 3

開催スケジュール ―――――――― 4

会議の内容

第１回 ―――――――― 5～7

第２回 ―――――――― 8～13

市民全体会議 ―――――――― 14～15

第３回 ―――――――― 16～18

第４回 ―――――――― 19～23

高校生・大学生による議論 ―――――――― 24～26

第５回 ―――――――― 27～28

1　ＮＥＸＴまきのはらの概要

(1) 設立の目的

・総合計画の策定に当たり、市民の多様な意見を把握するために以下の調査を実施した。その内容に背景、総合計画の基本的考え方を含めた「市民討議資料」を作成。

調査内容	実施時期	概要
市民意識調査	7 月中～下	988 人から回収。(転出者アンケート等を含む)
市内団体との意見交換会	7 月～9 月	17 回開催。173 団体、513 人が参加。
市役所プロジェクトチーム	6 月～3 月	横断的な 4 テーマを設定。

※市民意識調査と市内団体との意見交換会で 1,500 人を越える市民意見を収集

・市民討議資料の内容を基に具体的な計画案の組み立てを行う市民会議としてＮＥＸＴまきのはらを設立。

・各業界の市内団体から若手を中心に 25 名を選出し、一般公募 2 名、アドバイザー3 名を加えた 30 名で構成する。(メンバーは次ページ)

(2) 協議の進め方

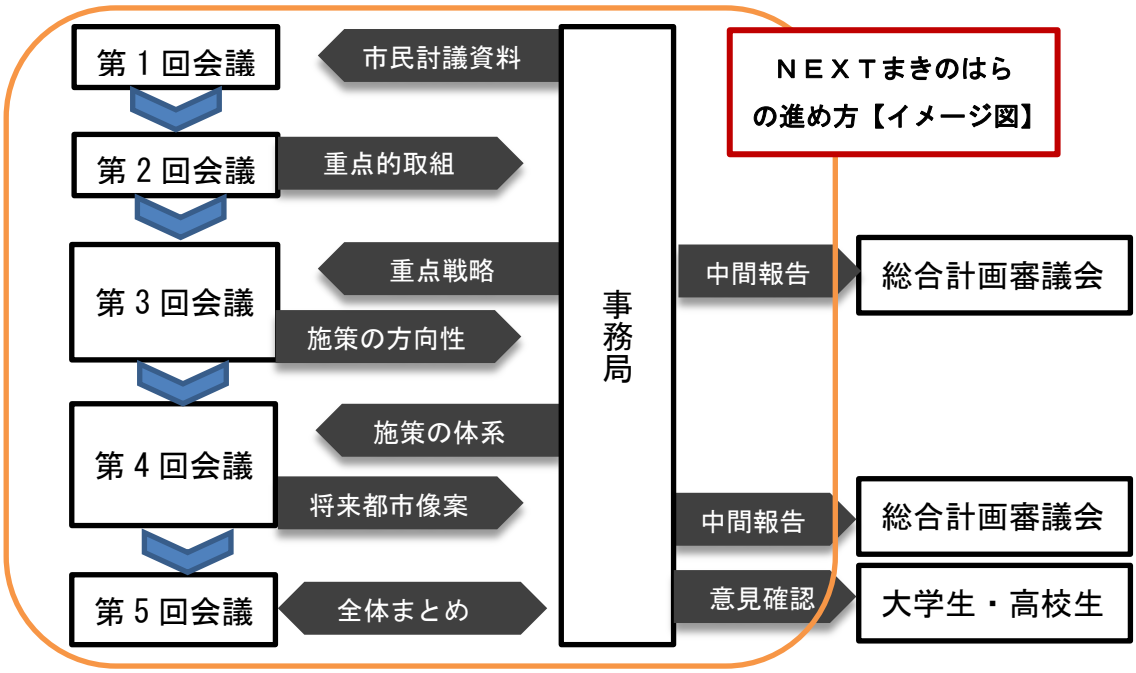
・平成 25 年 12 月～平成 26 年 3 月までの 4 ヵ月に合計 4 回の会議を開催。

・市民討議資料の内容を基に与えられたテーマについてグループ討議を行う。

・討議結果を事務局が専門家や総合計画審議会の意見を交えて整理する。

・次回会議に事務局から情報提供し、議論を積み上げていく。

⇒市民と行政の意見のキャッチボールをしながら内容を組み立てていく。



２　「ＮＥＸＴまきのはら」メンバー

区分	所属	氏名	備考
有識者	静岡大学	日詰　一幸	
	常葉大学	柴田　俊一	
	静岡産業大学	永田　奈央美	

産業・ 生活基盤 部門	商工会	小塚　裕万	※事務局兼任
	認定農業者協議会	石神　誠	石神農園
	大手企業	渡辺　浩	TDK㈱
	南駿河湾漁協	大石　幸弘	
	金融機関	渡邊　正純	静岡銀行
	観光業者	西谷　俊彦	むぎわらぼうし
	建友会	増田　雄也	相良建設㈱
	消費者（女性団体連絡協議会）	森主　ともみ	
	環境審議会	畑　洋子	㈱ハイナン
健康福祉 教育文化 部門	社会福祉協議会	加藤　孝通	※事務局兼任
	榛原総合病院	西郷　美智子	
	社会福祉法人	大石　幸	(福)牧ノ原 やまばと学園
	健康福祉団体	高須賀　直子	健康づくり リーダー
	学校法人（民間幼稚園）	増田　多朗	(学)榛原学園
	未来子育てネットまきのはら	片瀬　紀子	
	小中学校教員	櫻井　真弓	相良小学校
	幼稚園 PTA	植田　良子	地頭方幼稚園
	社会教育ボランティア	小田　三成	お話し会 ボランティア
行政経営 まちづくり 部門	行政改革懇談会委員	椿　美和	※事務局兼任
	自治会	山内　憲司	
	総合計画審議会	櫻井　秀樹	
	榛南青年会議所	冨永　裕貴	山本電機㈱
	司法書士会　志太榛原支部榛南地区	村松　長敏	
	自治基本条例推進会議	増田　千春	
	マキノハラ TV	伊藤　聡昭	※事務局兼任
公募		鈴木　克哉	
		木村　正利	

３　「ＮＥＸＴまきのはら」開催スケジュール

	日時及び会場	内容
第 1 回	12 月 17 日（火） 午後 1 時 30 分～4 時 40 分 牧之原市榛原文化センター 大会議室	第 2 次総合計画の構成、市民意見の分析などを参加者に説明する。 ・概要説明、自己紹介（30 分） ・市民討議資料の説明（130 分） ・意見交換会（30 分） 「説明を受けて感じたこと、これから牧之原市が重点的に取り組むことなど」
第 2 回	1 月 21 日（火） 午後 1 時 30 分～4 時 30 分 市役所榛原庁舎 4 階 会議室 2～4	グループワークを通じ、これから牧之原市が取り組む重点分野とその内容を協議する。 ・グループワーク①（60 分） ・協議結果の発表と投票（30 分） ・グループワーク②（60 分） ・第 2 回のまとめ（30 分）
市民全体会議	2 月 4 日（火） 午後 7 時～8 時 45 分 相良総合センターい～ら	策定状況を広く市民に周知するため、第 1～2 回の内容の中間報告を行う。 ・中間報告（30 分） ・講演会（60 分） 講師：静岡大学　日詰教授 演題：地方分権時代における総合計画のあり方
第 3 回	2 月 18 日（火） 午後 1 時 30 分～4 時 30 分 市役所相良庁舎 4 階 大会議室	第 2 回の結果を踏まえて、個別の施策の方向性をワールドカフェ方式※で協議する。 ・重点戦略案について（30 分） ・グループワーク①（60 分） ・グループワーク②（60 分） ・第 3 回のまとめ（30 分）
第 4 回	3 月 19 日（水） 午後 1 時 30 分～4 時 30 分 市役所榛原庁舎 4 階 会議室 2～4	これまでの協議結果をまとめ、今後目指す将来都市像や基本理念を協議する。 ・これまでの協議結果のまとめ（30 分） ・グループワーク（60 分） ・協議結果の発表と全体での協議（60 分） ・全体のまとめ（30 分）⇒第 5 回を開催。
第 5 回	5 月 9 日（水） 午後 1 時～4 時 市役所相良庁舎 4 階 大会議室	これまでの議論を基に将来都市像案を決める。 今後の計画推進の体制や役割について協議する。 ・将来都市像案について（60 分） ・グループワーク（60 分） ・全体のまとめ（60 分）

※　ワールドカフェ方式は、気軽な雰囲気の中で、できるだけ多くの参加者と話ができるようグループのメンバーを途中で変えて、様々な視点の意見と触れることで参加者に多くの気づきを与えながら協議を行う手法。

4　第１回会議の内容

(1) 概要

日時：平成 25 年 12 月 17 日（火）　午後 1 時 30 分～4 時 40 分
会場：榛原文化センター　3 階会議室
参加者：メンバー24 名

(2) 市民討議資料の説明　（約 2 時間 30 分）

・市民討議資料※の内容について、市役所からメンバーに説明。

(3) グループワーク　（約 30 分）

テーマ①　「市民討議資料の説明を聞いて強い印象を受けたこと」
テーマ②　「これから牧之原市が重点的に取り組む必要があると思う事」

選択項目	テーマ①		テーマ②	
	回答数	割合	回答数	割合
1　市民意識調査	3	4.1%	1	3.6%
2　市内団体との意見交換会	2	2.7%	0	0.0%
3　発展的な土地利用	15	20.5%	5	17.9%
4　子育て教育環境	6	8.2%	3	10.7%
5　魅力の創造と発信強化	7	9.6%	6	21.4%
6　公共施設の適正化	8	11.0%	0	0.0%
7　行政改革の推進	1	1.4%	0	0.0%
8　防災対策の推進	8	11.0%	4	14.3%
9　地域医療の充実	10	13.7%	1	3.6%
10　超高齢化社会対策	3	4.1%	2	7.1%
11　協働の推進	4	5.5%	0	0.0%
12　公共交通の推進	2	2.7%	1	3.6%
13　新エネルギーの推進	3	4.1%	1	3.6%
14　その他（人口減少対策）	1	1.4%	4	14.3%
合計	73	―	28	―

※市民討議資料の掲載項目。複数選択可能。

⇒　上記の意見は、市民討議資料の説明を受けてメンバーが率直に感じた感想をグループで話し合い、その後、各自でアンケートに記入したもの。
　2 回目までに、各自の意見を各団体等の関係者と話し合い、2 回目に向けた準備を行うよう依頼し、第 1 回を終了した。

(4) 参考（テーマ②の理由）

・子育て関係の意見が多く、人口流出に繋がっているとの事なので、まず考えなければいけないと思ったが、それだけでなく、雇用、医療、商業など全てのことが関連するため、これと決めつけず、全体を見直す必要がある。
・牧之原の魅力はまだある。観光は海だけでなく、歴史もそうである。
色々な魅力を全面的に出すことが魅力を子供や市外に伝えていく事、観光地の発展、高齢者に居場所づくりに繋がる。郷土史アピール戦略も検討したい。
・全ての根幹は、子供、親、祖父母の関係。子供達が安全・安心にゆったりと生活できる牧之原市になってほしい。
・市民レベルの小さいことでもいいので、市の魅力を市民が創造することの重要性（そのための教育が必要）とその創造を形にしてものをバックアップしてPRしていくことを行政が行ってほしい。
・牧之原に魅力を感じる子供達を育てていく。
・高齢者の活躍の場、代替えエネルギーの推進による原発イメージの払拭
・働く世代の仕事を増やし、税収UPし、子育て世代が定住するようになりたい
・市の人口・財源の減少の全てが津波に関係している点が大きい。
・人口増と財源不足をまちの経済力強化と合わせて行う。
・吉田町を居住地に選ぶ子育て中の家庭の大半が子供の医療費無料を理由にする。負担と働く世代の税収を考えた場合にどちらにメリットがあるか。
・沿岸部の人口が減少している中で、牧之原台地を利用し、住居、商業施設、企業誘致等に取り組み、地域活性化を図る。
・魅力あるまちづくりができれば人が集まり、よいまちづくりが出来ていく。
・巨大な負のスパイラルに入っているが、解決手法は意外とシンプルで、それで全てが好転すると思った。
・もしもの時にすぐ行ける病院がないのは不安、子供の命や守るべきものの優先順位を考えるべき
・安心して住める、PRできる事で人が集まる。
・様々な問題があるが、人口減少を続けて行くことになれば、牧之原市自体が残っていけなくなる。そのためには土地利用と魅力づくりが必須。
・活気のある地域創造が必要。
・無いものや高齢者を悪とするのではなく、そこを魅力とする働きを各部門で行っていく。高齢者は活躍の場を求めている。魅力となったところには、人も企業も集まってくると思う。
・人を大切にする市になってほしい。
・安全で生活できるイメージづくり。人口増加を目指し税収も増やす。
・防災が全てと思います。
・新幹線の誘致がお金に繋がるのか

(5) 記録写真

〇市民討議資料の説明

〇グループワークの様子

５　第２回会議の概要

(1) 概要

日時：平成 26 年 1 月 21 日（火）　午後 1 時 30 分～5 時

会場：牧之原市役所相良庁舎 4 階大会議室

参加者：メンバー26 人

(2) グループワーク①　（約 70 分）

テーマ：今後重点的に取り組む「分野」と「その理由」

内容：メンバーが 4 グループに分かれ（所属分野は混在）テーマを協議
資料提供した 26 分野について、理由を添えて意見交換。

〇分野と理由に係る意見の概要

分野	理由
発展的な土地利用	・新たな都市づくりによる賑わいづくり。 ・交流人口の増加（商業、住宅、職場等） ・流出人口の抑制（商業、職場、空港利用） ・農業の大規模化、農業と住商の共存 ・安心な住宅づくり、人口減少の対策
子育て教育環境の充実	・子育てと仕事の両立 ・安心な学校、住宅づくり。子供の安全が親の安心から定住人口に繋がる。 ・女性の子育て環境や教育が重要。 ・子供をたくさん産めて、良い子を育てられる環境が大切 ・近隣、市内出身の頑張っている人と子供の交流 ・公園の整備が必要 ・将来を担う生産人口が減り、活力が低下する。 ・自然教育施設で海外、都内の人を呼ぶ。 ・親子でまちづくりに参加できるように　堤防のアート ・将来を担う（社会をつくる）人材を育てる。
若者が暮らしやすい環境整備	・明るい雰囲気になる。子育てや教育にも繋がる。 ・働いていない若者が多い。働き場の確保。 ・商業、賑わい施設が無い。 ・空家の活用などの住宅支援。 ・観光スポーツで若者を活性化。 ・SNS、メディアを活用した情報発信。
防災対策	・安心できるまちにする。（災害対策、脱原発） ・人口流出・企業流出の防止 ・原発を無くし、自然エネルギーを活用

魅力の創造と発信の強化	・牧之原市の知名度アップ ・地域ブランド、シンボルづくり ・市の活力向上 ・ソフト面での弱さを克服する。 ・ゲーム要素を活用
新エネルギー	・脱原発 ・自然エネルギーの活用 ・市の活力（産業）の向上、牧之原市の知名度アップ
企業誘致・労働雇用の推進	・人口の増加 ・魅力ある雇用環境
超高齢化社会対策	・高齢者の活躍する場、雇用の機会 ・寝たきりを増やさない元気で生きていける。 ・地域、高齢者同士などによるケア体制 ・自治会における対策（訪問介護、防犯交通）
公共交通の充実	・人の流れをつくる。（東名、新幹線駅、空港、バス、R150） ・思いやりタクシー（ボランティア）
健康活動の推進	・まずは健康でなければ何もできない。 ・健康意識のために何かやりたい、できる場を
公共施設のあり方	・一元化し、市の負担を軽減 ・民間に任せられるものは任して経費削減 ・削減できた費用を子育てや弱者福祉に回す。 ・多の目的への転用(合宿、観光等) ・榛原病院のあり方(開業医の間借り、専門医増加)
住民自治の推進、協働の推進	・市民活動の活性化 ・地域での課題解決（防災対応） ・自分から参加型、発信型のＮＥＸＴまきのはら

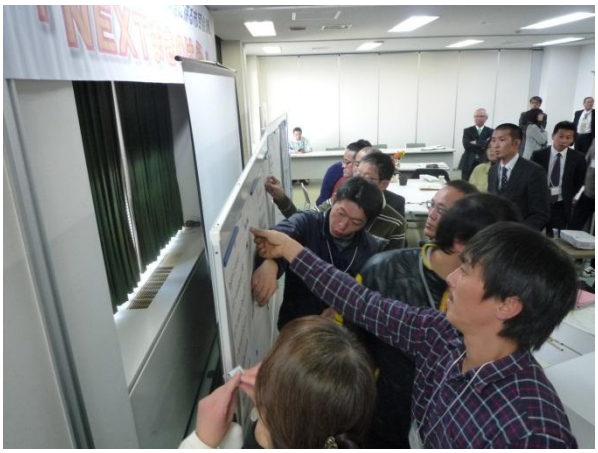
○議論の様子

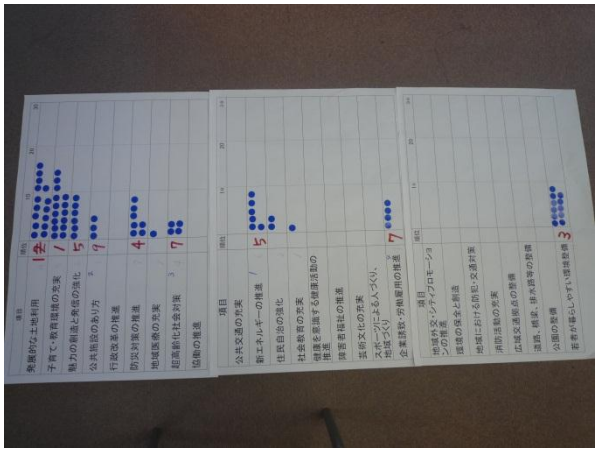
(3) 投票結果（約 30 分）

グループワーク①の結果を参考に各自 3 票を違う項目に投票。

項目	投票数	順位
子育て･教育環境の充実	15	1
発展的な土地利用	15	1
若者が暮らしやすい環境整備	11	3
防災対策の推進	7	4
魅力の創造と発信の強化	6	5
新エネルギーの推進	6	5
企業誘致･労働雇用の推進	4	7
超高齢化社会対策	4	7
公共施設のあり方	3	9
住民自治の強化	2	10

〇投票の様子





(4) グループワーク②（約 90 分）

テーマ：重点的取り組むテーマの内容

内容：メンバーが 4 グループに分かれ（所属分野は混在）テーマを協議

投票順位の上位 8 テーマを各グループに 2 テーマずつ配分。

〇分野と理由に係る意見の概要

分野	理由
発展的な 土地利用	・牧之原の未来の基になるエリア化を 10 年～20 年、更には 50 年後の青写真にしていく。 ・IC 周辺の土地利用については、アクセス、人の流れ、工場、商業を考え検討する。 また、子育ての面で文教地区（幼・保、小・中の集約）の確立をして

	いく。耐震性も考慮。 ・牧之原の森として特産物を集約した箇所をつくり、アクセス道路に面白い名前を付けてアクセスしていく ・住宅地もしっかりつくっていく ・市営の店、屋上茶園などの具体的な意見も出た。
子育て教育 環境の充実	・結婚については、相談、意欲の向上、子育て体験、結婚時期を逃さないため女性の社会進出の支援、安心して結婚できる環境を作っていく ・子育では、保育・医療の費用支援、夜間の保育の充実、お金ではない特典、教育への関わり ・教育では、地域を愛する子供を育てる、育児体験、高齢者などとの交流（自分の大切さを知る）、企業の事業を活かした職業体験　親の関心、図書館（吉田町、御前崎など）の広域的な利用 ・充実させることにより牧之原に若者が戻ってくる。大学を設立することで循環型となる。
若者が 暮らしやすい 環境整備	・若者の定義は　高校卒業から子育て世代の 18 歳から 36 歳とした。（内容は 5 つのカテゴリーに分類） ・環境は、自分の故郷として親しみのある環境を整える。優れた自然、温かいコミュニティ、マリンスポーツなど ・教育では、若者が帰ってきて再度教育をしてほしい。大学の誘致などを行い、環境を充実していく。 ・雇用は、雇用の支援や若者が起業しやすい環境づくり ・生活は、家や土地を買うための支援、空き屋の有効利用、小さな子供を持つ親の支援 ・娯楽は、魅力がある店舗（おいしいラーメン屋等）があれば人が来る、ショッピングモール、カジノ、婚活パーティなど暮らしやすい環境
防災対策	※津波防災まちづくりで市民を交えた議論がされているため、今回はテーマとして扱わない。
魅力の創造と 発信の強化	・テーマが具体的ではなく、魅力とは何かから話をした。 ・表の見方だが、横軸が魅力と発信　縦軸が市内と市外 ・起業への支援など魅力はこれから作っていく事でもある。教育も今ある魅力も伸ばす。牧之原市が教育の市になれば子供が帰ってくる。 ・遊び場、繁華街（カラオケもない）も必要。観光はサーフィン　これから魅力を作るのは大変だが、牧之原市には海がある。御前崎市みたいなヤシの木通りにしてアメリカの様な雰囲気に ・口コミが噂を呼び市民を巻き込まないと行けない。そうしないと他市の HP は見ないと思う。人を介して情報は広がっていく。
新エネルギー	・脱原発でいることが大事。子供達の負の遺産としないような持続可能

	なエネルギーを開発。 ・新エネルギーには、風力、海洋、波動、バイオマス、太陽光がある。太陽光の規制緩和。土地利用の手続きの簡素化し、有効活用していく。 ・新しいエネルギーの開発のため、研究所の人達を呼びながらも地元と提携しながらファンド化などして設ける。 ・市民自体も新エネルギーに取り組むための組織化などもやっていく。
企業誘致・労働雇用の推進	・企業に来てもらいたいが、企業も魅力がないと来ない ・何が大事か、企業の周りに生活スタイルをつくることが重要。土地を用意するだけでなく、ホテル、ファミリーサポートなども必要 ・企業の人達をサポートする人たちがいないといけない。生活密着型の企業誘致が重要。牧之原市で楽しめるような総合性を確保していく。 ・今ある企業を育てる、今ある企業を宣伝することも重要。企業求人を分かるようにする。 ・起業支援、農業の企業化などを含めて検討する。 ・市がしっかり調査して企業を選ぶことも必要
超高齢化社会対策	・年寄りの活躍する場、技術を地域に貢献、子供との関わり、健康な高齢者がお金を稼ぐ、高齢者が起業できる、活き活きしたくらしなど。 ・けがをしない病気にならない体力づくり、お互いが関わり合うシステムづくり（ラジオ体操のメンバーが毎日顔を合わせる）、自治会との触れ合いネットワーク、FB 活用など ・地域で支えるボランティアのシステムづくり（元気な人が手助け、掃除、買い物をするなど）市が、子供が高齢者に手助けしたらポイントを付けて、表彰する。 ・子供と高齢者との関わりの中で活き活きした暮らしができる、近所福祉では自治会の公民館を利用して高齢者と子供が触れ合える関係。年寄りに対するコミュニティバスの移動手段の確保、見守り隊などやり方は色々、子育て支援にも繋げることができるのではないか ⇒地域の高齢者の理解が深められるシステムづくり
公共施設のあり方	・市役所は庁舎が２つあるため統合する。空いたところは商業施設に貸し出し、家賃をとる。 ・い～らが中途半端なため、結婚式場やセレモニー会場として利用し、結婚させる。 ・再利用は子供が減って校舎が空いているところを牧之原大学として年寄りやボランティアに何かやってもらう。 ・民間に任せられるところは任せてやっていく ・新規は、素晴らしい環境を活かし、自然学校などの施設を作って全国から人を呼ぶ

○議論の様子

⇒第２回会議結果は、計画における重点的な取り組みに反映する。

６　市民全体会議

(1) 概要

日時：平成 26 年 2 月 4 日（火）午後 7 時～8 時 45 分

会場：相良総合センター　い～ら　ホール

参加者：約 200 名（市内団体との意見交換会参加者 500 名に案内）

(2) 内容

第 1 部：総合計画の策定状況の報告

ＮＥＸＴまきのはらメンバーによる策定状況の説明。

〇説明の要旨

・新しい総合計画のポイント

・市内団体との意見交換会

・ＮＥＸＴまきのはら　⇒　協議状況の DVD 上映

・アドバイザーの挨拶と講評

〇説明の様子

第 2 部：基調講演

講師：静岡大学日詰一幸教授（ＮＥＸＴまきのはらアドバイザー）

演題：「地方分権時代における総合計画のあり方」

〇講演の要旨

・総合計画とは

・地方自治法の改正（市町村自らの必要性と判断で策定する計画に）

・計画策定のポイント（計画体系、市民参加、職員の参加）

・計画推進のための戦略性の確保（選択と集中、市民・企業との連携）

・総合計画の進行管理（成果指標、第 3 者評価）

・時代のトレンドと地域の状況を把握する必要性。

（地域課題：人口減少、少子高齢化の影響の分析）

⇒　牧之原市の具体的なまちづくりにどのように活用するかという視点。

総花的ではない、まちづくりの方向性・理念が明確化された計画に

〇講演の様子

自治体にとってはトップに位置づけられる計画
通常、8～10年の期間を設定し、それを前期計画と後期計
画に分ける場合が多い
一般的な計画の体系
（「市町村計画策定方法研究報告」1966.3）
基本構想～基本計画～実施計画
↓
基本構想～自治体運営の基本理念・方向性、目標
基本計画～基本構想に基づいて実施する具体的施策
実施計画～基本構想に基づいて実施する具体的事業

7　第 3 回会議の概要

(1) 概要

日時：平成 26 年 2 月 18 日（火）　午後 1 時 30 分～5 時

会場：牧之原市役所相良庁舎 4 階大会議室

参加者：メンバー26 人

(2) 重点戦略の説明

・前回の投票結果を基に事務局で意見を整理集約し、重点戦略（重点的に取り組む分野と基本的な考え方）の案をまとめた。

・３つの重点戦略案は以下のとおり

①活力を高め、若者が魅力を感じる住環境をつくる。
②共に支え、安心で想いが実現できる地域社会をつくる。
③経営を見直し、推進力を高める体制を整える。

重点戦略イメージ図

(3) グループワーク（約 120 分）

テーマ：個別の施策の進め方

内容：メンバーを「行政経営・まちづくり」「健康福祉・教育文化」「産業・生活基盤」の 3 グループに分け、途中でグループメンバーを変える「ワールドカフェ方式」にてグループ別のテーマを協議した。

○各分野の意見の概要　※意見数が多いため、発表の際の代表的な意見を抜粋

①行政経営・まちづくり部門の意見

住民自治協働	・共同で参加できるイベント。子供中心に考えると家族が参加する。家族単位のイベント、集まれる場所が必要になる。強制的に参加させるような仕掛けも必要になる。 ・参加枠を設ける、買い物券などの特典を付けるなどの工夫をする。 ・自治会の情報の伝達がうまくいかない。口コミの情報、インターネットの活用など。 ・組織では、コミュニティ組織、コミュニティビジネスの強化。ビジネスとして人が変わっても続けられる。 ・主体となる人、参加者のメリットなども考える。
防犯交通安全	・挨拶、声掛け、街路灯の整備など ・歩行者道路、自転車道などの道路整備

市政運営	・公共施設は同じ施設が 2 つあるため整理していく。 ・市の活性化のための賑わい施設、子供の医療費などの工夫。 ・牧之原の特色ある取組の実施。市政を担う、市役所の人材育成ための専門性・人事交流。

②産業・生活基盤部門の意見

産業	・農業、漁業が厳しい。お茶から別の農作物にシフトしていく。牧之原市の特産品という新たなものを作っていく。 ・観光は、漁協が一つにまとまって施設が空いているため、海の駅に活用したらどうか ・マリンスポーツを多様化するため、競技毎のゾーニング、駐車場の整備を行い、遊びやすくする。
建設 都市計画	・交通インフラが不便。静鉄のバスだけでなく便利なものにする。バスと電車を併用できる電車を駿遠線跡地の線路道に入れていく。 ・都市計画で牧之原 IC 前の活用。観光、サーファー客の駐車場の確保。 ・150 号線の富士山の景観が素晴らしい。看板なども管理していく。
環境	・公園については点在しているため、大きな公園に一本化する。ただ作っても平日使われないので、小学校の近くなどに作り、平日も休日も人がいるようにする。 ・防災公園も兼ねる。 ・エネルギーは、耕作放棄地の活用をしやすくする。市民ファンドの立ち上げ。 ・環境は、ゴミ処理場が 2 つあるので 1 つにするべき。環境と観光に繋げて、砂浜を増やしていくべき。

③健康福祉・教育文化部門の意見

福祉	・キーワード「関われる、交流、繋ぐ、繋ぐ人をつくる。」 ・学校、地域単位で集える場所が、健康づくり、世代間の交流、学びに繋がる。 ・お節介な高齢者の存在。点で終わらず、続けられる形にしていく。
健康	・お医者さんのモール化（ある地域に集約し、24 時間体制で切れ目のない対応） ・食育の意識化、みんなで作ったものをみんなで食べる。心の健康も必要。 ・マリンスポーツのアピール。避難路でのウォーキングで避難訓練を兼ねる。
教育	・親世代の心を育てる。学校だけでは学べないコミュニケーション能

	力の育成。 ・横浜中華街の様に市独自の語学などのプログラムを作る。道徳が重要になる。

○議論の様子

⇒第３回会議結果は、基本計画の各施策に反映する。

8　第４回会議の概要

(1) 概要

日時：平成 26 年 3 月 19 日（水）　午後 1 時 30 分～5 時

会場：牧之原市役所榛原庁舎 4 階会議室

参加者：メンバー24 人

(2) 全体の構造、施策の体系を説明

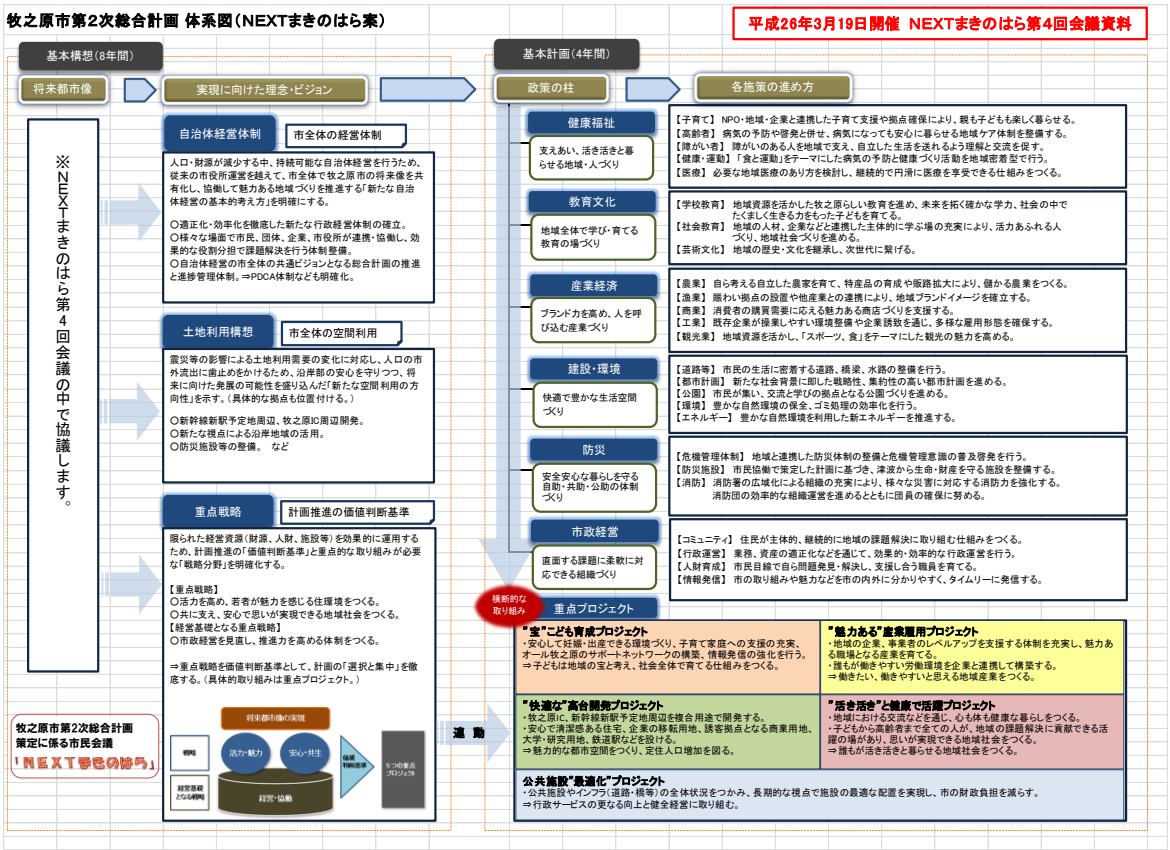
・基本構想、基本計画、実施計画の 3 層構造にし、重点的な分野を重点戦略、重点プロジェクト、戦略プランとして各層に連動する。

・基本構想は将来都市像や理念などの基本的な考え方、基本計画は政策の体系や各施策の進め方、実施計画には具体的な事業を位置付ける。

・第 3 回会議の意見を基に市役所の各部と協議して、全体のイメージ図を以下のとおり作成し、メンバーに説明した。

※イメージ図は全体の構造を説明するために簡略にまとめたもの。

【構造や体系のイメージ図】



(3) グループワーク①（約 30 分）

テーマ：これまでのまとめ

内容：メンバーを 4 グループ（所属分野を混在）に分けて、体系のイメージ図を基に内容を協議。

○具体的な意見

分野	意見
全体 構造	・今後の 8 年間の牧之原市に繋がるため、言葉を選んで議論をした。 ・重点戦略の「活力を高め、若者が魅力を感じる住環境をつくる」というところの若者に限定することはキーワードとして不要ではないか。高齢者にも目を向ける。しかし、若者の活力が投票上位であることを重く受け止め尊重するという意見もあった。肉付けして妥当な言葉を再考したらどうか。 ・このワードだと牧之原市が高齢者を排除するように聞こえるかもしれない。 ・PDCA が非常に重要。評価については、基本計画に目標を設定して分かりやすくし、1 歩、2 歩前進したことを市民に理解されやすくする。目標は、様々な分野もあり安易に決めるべきではない。市民が目標設定を検討する場を設けるという意見も出た。 ・これからの牧之原市の流れを決めるなら、強く・インパクトのあるキャッチフレーズの様な文言にしていく。「がんばろう」と思える表現になればいいと思う。 ・市役所寄りの考え方になったイメージ。 ・基本構想中の「自治体の経営体制」、「土地利用の構想」がビジョンとか理念ではなく、重点戦略の中にある「活力、魅力、安心、共生」などが理念に入って来た方が市民目線では理解しやすいと思う。それがあって「経営体制や土地利用」に取り組む。 ・具体的な施策は 4 年間でカテゴリー別に分け、重点プロジェクトは横断的に横串を指していることは分かった。プロジェクトには勇気がいる。4 年間でやり切っているかを市民が見る。プロジェクトという名前についても議論が必要。 ・全体的には、これまでの内容をコンパクトにまとめているが、指摘の部分が市民目線でなくなっていると思う。
まちづくり 行政経営	・自治体経営の中にある PDCA の明確化が大事。特にコミュニティの「住民が主体的、継続的に関わる仕組みをつくる」という部分がポイントになる。 ・参画している市民の意見の集約と実現できるシステムづくりを進めてもらいたい。
産業 生活基盤	・産業経済の「ブランド力を高め、人を呼び込む産業づくり」の人の前に「企業」を入れる ・農業の「特産品の育成、販路拡大」にこだわる必要はない。「など」

	をつける。 ・観光業は「スポーツ・食」に限定しなくてもいい。ベースになっている意見は分かるが、含みを持つ表現にしてもいいと思う。 ・道路、都市計画のところの表現が守りに入っている。
健康福祉 教育文化	・高齢者の「病気になっても」というマイナス表現を「健康寿命を延ばす」などに改める。 ・健康福祉で「高齢者と子供が交われる場」をつくる。 ・学校教育の「牧之原らしい教育」という言葉の結びが「生きる力」だが、もう少しいいい言葉があれば（具体的には出なかったが） ・教育文化で「図書館」をもう少し大きくする。

⇒　今回の資料は、全体のイメージ図のため、各施策の内容は概要のみになっているが、基本計画の本編には、今回の内容を含めて、具体的な記載を行う。

全体や構造に係る意見は、基本構想の作成に反映していく。

(3) グループワーク②（約 40 分）

テーマ：将来都市像の検討

内容：メンバーを 4 グループ（所属分野を混在）に分けて、グループワーク①で議論した内容を基に今後市が目指す将来都市像を検討。

〇検討における条件

・市の現状を表すものではなく、目指す将来像を表す。
・インパクト、未来に向かう前向きさ、メッセージ性を盛り込む。
・計画案の趣旨が反映されている。（重点戦略の内容に繋がる。）
・周辺市と内容が被らない。
・長くても 20 文字程度の「文章」とする。
・総花的に関連ないワードが並ぶものにしない。
・この言葉を選んだ理由が明確に説明できるもの。

〇各グループの意見

案１	「ワクワク　ドキドキを次世代に繋ぐまち　牧之原」
理由	・様々な意図を踏まえて複数の案を作成。 ・未来を担う子供を中心にする。「次の世代に誇れるまち　牧之原」「子供が元気」 ・未来をイメージする「世界に飛び立つＮＥＸＴまきのはら」、「人良し、町良し、未来良し牧之原」 ・市民をイメージする「世界の中心、日本の中心、元気な心まきのはら」「私

	達の私達による　私達のまち　牧之原」 ・原点に返ると８年後どんなまちになるかを表現しないといけない。これまでの３つを網羅して案のとおりとした。 ・子供が大事なため、この町に住む子供達に案を持って行って決めてもらう。
案２	「手を繋ぐ、心を繋ぐ、笑顔で繋がる牧之原Ｖ」　　（案ａ） 「人と自然の贈り物　繋ぐＮＥＸＴまきのはらＶ」　（案ｂ）
理由	・外せないキーワードを出したところ「老若男女」「衣食住」「暮らしやすい」「楽しい」「ＮＥＸＴ」も出た。 ・「やばいよ　やばいよ　牧之原」というワードが出た。これはすごいという意味のやばいで小学生にも女子高生にも分かる。 ・10 年後の牧之原のイメージを出したところ、「にこにこ」「わいわい」「活き活き」などを言葉で繋げると案ａのとおりとなる。ＶはＶサイン、ビタミンのＶでもある。もう一つは案ｂということで、牧之原Ｖはイラストも含めて採用してもらいたい。 ・決め方は学生にも柔らかい頭で検討してもらいたい。聞いてみたい。
案３	「人の“わ”で築く、活力・愛のまち」
理由	・共存と「わ」（和・輪・話）をテーマ。この会議の中で考えたことは、自然との共存、民間と行政の共存、市民との共存、世代間の共存が中心的なテーマだった。 ・具体的なものとして「話・輪・和」を大事にする。 ・4 月中には案を決めたいと思うので、時間があれば高校生とか中学生を入れたいが時間が無いのでＮＥＸＴまきのはらのメンバーで決めていく。
案４	「やる気ありますまきのはら　～みんなで喜ぶ愛のまち～」
理由	・重点戦略の「活力を高め…」「共に支え…」を「やらざぁ牧之原市」と「はじめました牧之原市」にする。 ・重点プロジェクトだと固いので「西原課長のやらざぁ課」とする。 ・子育てについては、「マ・キ・ノ・ハ・ラ」でママ、キッズ、のための、ハッピー、ラッキーというタイトルをつけ、高台は「天空の都　牧之原市」、産業雇用では「探検・発見ジョブのまち」、活き活きは「じぃ・ばぁランド」、公共施設は施設の有効利用を考えて「教室で女子会」というサブタイトルを付ける。

○将来都市像の選定

・（メンバーから）今回の計画は若者や子供に重点を置いた議論がされているため、高校生、大学生などの意見を含めて決めていきたいとの意見が出た。

・（アドバイザーから）若い人が関わると見え方が変わる。住んでいる学生や離れた所にいる学生の観点を入れてフレーズを考えると面白い。

⇒　静岡産業大学の学生、市内の高校生の意見を確認のうえ、第５回会議を開催して、将来都市像の案を決定していくこととした。

○議論の様子

⇒第４回会議結果は、将来都市像の検討に活用する。

９　大学生・高校生による議論

(1) 静岡産業大学の学生による議論

〇概要

日時：平成 26 年 4 月 16 日（水）

会場：静岡産業大学

参加者：ＮＥＸＴまきのはらアドバイザー　永田奈央美専任講師、学生 15 人

〇グループワーク

テーマ：牧之原市の将来都市像

内容：ＮＥＸＴまきのはらと同じ条件で静岡産業大学の学生が将来都市像（牧之原市のキャッチコピー）を検討。

〇協議結果

案１）牧之原　世界へ繋げよ！　そのめぐみ　～海の活力・お茶の健康～
理由：海とお茶といった自然にめぐまれているイメージがある。温かい気候と、ほっこりとした雰囲気がある。海は健康に良い鮮魚、エネルギーが漲る夏の海水浴をもとに、海の活力を出したいと考えた。また、お茶による健康を売りにしたいと考えた。
案２）お茶の町　うみとそらと人つなぎ
理由：牧之原は、空と海が他県・他国からの玄関であり、お茶を通じて人と繋がることができる。 静岡の中でも一番茶が先に取れ、海産物が豊富であり、小さい町ながらも空港が活性化しようとしている。 温かい雰囲気があり、人との繋がりを大切にしているイメージがある。
案３）牧之原から発信　静岡お空の玄関
理由：空港を前面に出したい。売りにしたい。空港によって、産業が発展し、外への発信源になるだろうから。 「健康茶畑グローバルロード」というキーセンテンスを
案４）海の幸とお茶の香り　新鮮を日本へ！
理由：海の幸とお茶の香りが漂い、のどかでおっとりとした温かい雰囲気がイメージできるから。田舎の良さが表現できるようにした。そのような新鮮さを空港によって、日本各地へ届いてほしいという願望を入れた。

〇意見の傾向

外から市を見ている大学生は、空港、お茶、海など「産業」、自然、温暖な気候など「温かさ、のどかさ」に関連する意見が多い傾向にある。

○議論の様子

(2) 高校生による議論

○概要

日時：平成 26 年 4 月 19 日（土）　午後 1 時 30 分～午後 5 時

会場：市役所榛原庁舎　4 階会議室

参加者：相良高校 13 名、榛原高校 12 名　合計 25 名

○グループワーク

テーマ：高校生が住みたいまちの姿、牧之原市をこんなまちにしたい。

内容：自分達が暮らしやすいまちについて、家族や将来生れる子供のことも考えて、市をどうしていくかを議論した。

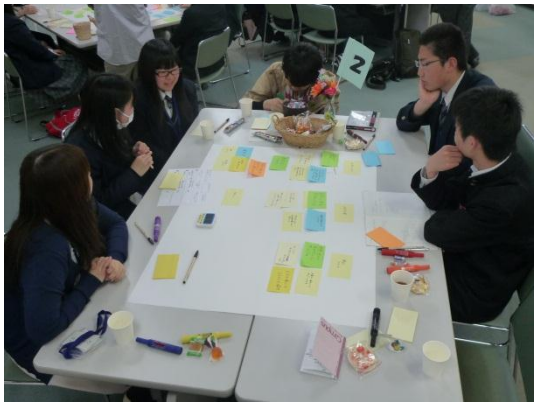
○意見のまとめ

・学校帰りにみんなで集まれるカフェ、スイーツ店がある。
・ショップ、デパート、カラオケ、商店街などの遊ぶところ、買い物できるところが欲しい。
・ショッピングモールやディズニーランドが欲しい。
・交通の便が悪いため、駅やバスの本数を増やす。
・地域の繋がりをしっかりつくることが大事。地域の人との交流をもっとよくしたい。
・工場の感謝祭との連携、新潟などから雪を持ってくるなど、市民が参加したくなるイベントなどの交流の場をつくる。
・祭り、花火大会などのイベントをもっとやって欲しい。
・本が読みたいため、図書館が欲しい。
・ゴミのポイ捨て、勝間田川をきれいにしたい。　など

○意見の傾向

学校帰りにみんなで集まる場所や地域の繋がりなどの「交流」、バスや駅などの交通の便、買い物環境などの「便利さ」に係る意見が多い傾向にある。

○議論の様子



⇒大学生・高校生の意見を将来都市像の検討に活用する。

10　第５回会議の概要

(1) 概要

日時：平成 26 年５月９日（金）　午後 1 時～3 時 30 分
会場：牧之原市役所相良庁舎 4 階会議室
参加者：メンバー20 人

(2) 協議内容

・事務局から前回ＮＥＸＴまきのはらの協議内容、高校生・大学生による議論の結果を基に将来都市像案を説明。
・前回会議で 4 つのグループから出された意見や高校生・大学生による議論に込められた意図、メッセージを次のとおり分析した上で、前回会議で提示した前提条件を考慮して、将来都市像案としてまとめた。

①ＮＥＸＴ牧之原の意見の傾向

	人の繋がり	活動する力	心の充足	将来に向かう
「ＮＥＸＴまきのはら」の意見	・手を繋ぐ ・心を繋ぐ ・人の“わ” ・みんなで	・ワクワク ・ドキドキ ・Ｖ ・やる気	・笑顔で繋がる ・愛 ・喜ぶ	・次世代 ・ＮＥＸＴまきのはら
活用する言葉	**絆**	**元気**	**幸せあふれ**	**ＮＥＸＴまきのはら**

②大学生、高校生の意見の傾向

・大学生は、「空港、お茶、海」、「温かさ、のどかさ」に関連する意見が多い。
　〇お茶と海　⇒　自然に恵まれているイメージや市の特産品
　〇空港　　⇒　空の玄関口、人や物の交流の拠点、情報の発信源
　〇温かさ、のどかさ　⇒　温暖な気候、人の繋がりを大切、田舎の良さ
・高校生は、「人の交流や繋がり」「飲食、娯楽施設」「交通の便」
　〇人の交流や繋がり　⇒　地域の交流、子供達が集まれる場所、イベント
　〇飲食、娯楽、交通の便　⇒　便利さ、買い物や遊びに行く場所や手段
⇒　大学生、高校生の意見から『集う』（人、情報、企業が集まる）を活用。

(3) 将来都市像の案

絆と元気が創る　幸せあふれ集うまち　ＮＥＸＴまきのはら

・（アドバイザーから）一つ一つの言葉がパズルのように積み上げられたもの。こ

れまでの議論のプロセスが集約され、この会の話し合いの結果からこの言葉が滲み出てきた。

・牧之原市の自然の豊かさと温かい人間関係などの良さに満足するだけでなく、新しいことに取り組むことが大事。パワーみなぎる将来像の基で今後何をしていくかが重要になる。具体的な取り組みを皆さんと考えていきたい。

⇒　参加者から意見はなかったため、当案をＮＥＸＴまきのはらの検討案とした。

(4) 第 5 回の結果のまとめ

・将来都市像は案のとおりとする。

・メンバーの感想の中で今後も関わりたいという意見がたくさん出た。

・当会は今回で終了となるが、メンバーには、計画の情報発信、推進などに市民・団体として関わってもらう。また、点検や評価などにも関われる体制について、具体的に総合計画をまとめる過程の中で整理し、後日メンバーに提案する。

11　今後の対応

・全 5 回の会議で議論してもらった内容を基に、第 2 次総合計画基本構想案及び基本計画案を事務局で作成する。

・作成された案は、牧之原市総合計画審議会における調査審議を経て、計画案としてまとめられ、市議会の 9 月定例会に議案として上程していく予定。